

「壁式改良工法研究会」会員の公募

軟弱な粘性土地盤などに盛土を構築する場合、一般的な地盤評価と設計手法では、沈下・安定のために全線にわたる軟弱地盤対策工が必要と判断され、軟弱地盤対策工の建設コストが膨大となります。

壁式改良工法研究会は、要求される機能確保とコスト縮減に適した軟弱地盤改良工法である「壁式改良工法」の普及および技術の向上を通じて良質な社会資本の効率的な整備に貢献することを目的として設立したもので、下記のように正会員・一般会員を公募しています。

なお、本工法は、九州地区の地盤関係の先生方と土木研究センターが共同開発した工法です。

記

応募資格： 深層混合処理工法の施工実績のある法人

応募方法： 土工構造物研究部 土橋(TEL:029-864-2521)まで連絡いただければ、応募様式を送付いたします。

正会員： 小野田ケミコ株式会社 三信建設工業株式会社
日特建設株式会社 ライト工業株式会社
新日本グラウト工業株式会社

一般会員： 応用地質株式会社 サンコーコンサルタント株式会社
日本地研株式会社

以上

(参考) 工法概要及び特徴

「壁式地盤改良工法」は、盛土横断方向に連続して壁を設け、その上部に浅層改良体を設置する構造です(図-1)。周辺地盤の沈下水準を満たさない場合は変位抑制壁を設けた沈下対策工法です(図-2)。その主な特徴を以下に示します。

- ・改良壁とそれで囲まれた地盤が一体的に沈下し、沈下対象層が減少
- ・沈下対象層が壁部下端より下の固い層となり沈下量が減少
- ・壁側部の周面摩擦力により沈下対象層への載荷荷重が減少
- ・壁部を盛土横断方向に設置するので地下水の流れを遮断し難い
- ・改良壁部の盛土はほぼ均等に沈下し、不陸が少ない
- ・改良壁間が拘束されるため耐震性が高い

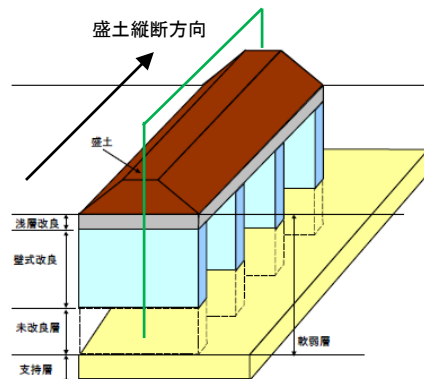


図-1 壁式改良工法

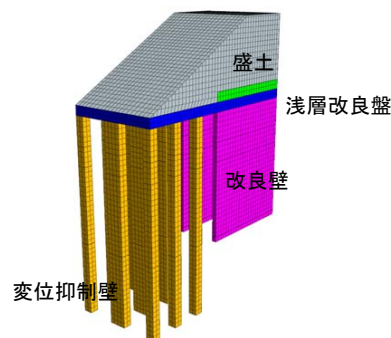


図-2 変位抑制壁付き壁式改良工法